

コード等安全通路横断時の「見える化」

コード・ホース類が安全通路を跨ぐ場合、踏付けによる足首の捻挫、躓き転倒の危険がある。視認性の向上と浮き上がりを防止するカバーの設置により、これらのリスクを抑制することが出来た。



コードがそのまま横断していると危険だがカバーを設置しているので安全で安心。



安全通路以外の作業場内でも災害リスクの高いところにはカバーを設置した。

カバーをスロープ形状にしたことで、手押し台車通過時のコード損傷による感電リスクも防止できる。